

分野(3)

ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

研究課題名：COPD患者と公害認定患者に対する重症度別、
簡便呼吸リハビリテーションプログラムの多施設間無作為比較試験に関する研究

調査研究代表者氏名：千住秀明

評価コメント

- ・公害患者を対象に加え、その病態特性を検討したことを高く評価する。
- ・比較する場合には、全体での比較よりも同一の性で両者を比較すべきである。
- ・COPD患者と公害認定患者でさまざまな項目について相違が見出されており、興味深い。COPDと公害患者では、現行のCOPD用のリハビリの反応が違うのではないか。
- ・COPD患者と公害認定患者との間で呼吸リハの効果に差があるのか、あるとしたら何が理由なのかの検討が必要なのではないか。
- ・公害認定患者の特徴は明らかにされたが、呼吸リハをどのように組み入れて、どのような効果をあげていくかについて検討を願いたい。
- ・事業が適切に行われることによって健康回復事業に寄与することが期待される。しかし、まだ症例数が少なく、また年齢の関与、リハ以外の治療の影響等についての検討が必要であろう。さらに、一律のプログラム(回数、場所、内容等)に従って、リハが行われたうえで成績の収集が望まれる。
- ・研究は有用なものと考えられる。しかし、リハビリテーションの対象となった患者の呼吸機能を見ると、一秒率(FEV1.0%)の平均値が66.2~70.0%とかなり正常に近い。このデータを見ると敢えて呼吸リハビリテーションを行わなくてもよい患者もかなり含まれている可能性がある。呼吸リハビリテーションを行う場合、呼吸機能からみた適用基準をもう少し厳しくとった方がリハビリテーションの効果をはっきりと評価できるのではなからうか。
- ・公害認定患者の呼吸リハビリテーションプログラムが(気腫型)COPDを中心とする対象者へのプログラムの援用だけでは効果がでないことが示された。
- ・今後は気道分泌に対するプログラムを加えて、QOL、急性増悪(救急受診)などの改善の有無を評価指導に入れた判定が必要。